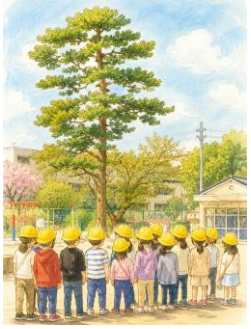
コミュニティ・スクール通信

うえのはらの風

2026 年 5 月発行(14 号)
調布市立上ノ原小学校
コミュニティ・スクール
学校運営協議会
会長　清水 美千代

コミュニティ・スクール４年目がスタートしました



上ノ原小学校がコミュニティ・スクールを導入して、今年で 4 年目を迎えました。今年で上ノ原小学校は開校 77 年になります。「コミュニティ・スクール通信：うえのはらの風」は、学校運営協議会の取組や，学校・家庭・地域がつながる様子をお伝えするお便りです。校歌にも歌われる「緑」「光」「丘」のイメージを大切にしながら、やわらかく、あたたかな風のように、上ノ原小学校に関わる皆さまをつないでいける通信を目指して発信していきます。

委員からのメッセージ

清水 美千代（会長）
引き続き学校、保護者、地域を繋ぎ対話を深め協力、共有、風通しのよい環境づくりに努め、地域全体で子どもたちを育ててまいります。

小川 克久（副会長）
子どもが上小を卒業して早３年、地域のおじさんとして、引き続き上小に関われることを嬉しく思います。よろしくお願いいたします。

遠藤 晃弘（委員）
卒業生、保護者、地域の一員、そして学識者としての立場を生かしながら、地域とともにある学校づくりに貢献できるよう努めてまいります。

鷲尾 由衣（委員）
一保護者としての視点と、PTA 活動で感じている保護者の声も大切にしながら、学校と地域をつなげていけたらと思っています。

加々美真由美（委員）
子どもたちがお世話になった小学校で、学校・家庭・地域が一体となり、児童の学びと成長を支える活動に取り組んでいきたいです。

釜池 秀男（上ノ原小学校長）
教職員・保護者・地域が連携して、子どもたちが楽しく通える学校づくりをしていきたいです。今年度もよろしくお願いします。

学校運営協議会の報告

第 1 回学校運営協議会（4/20）

概略
令和 8 年度の学校運営協議会は、年間 10 回の開催を予定しています。第 1 回では、校長より学校経営方針の説明があり、「笑顔あふれる楽しい学校」の実現に向けて、学校・家庭・地域がどのように連携できるかについて意見交換を行いました。

第 2 回学校運営協議会（5/27）

概略
校内研究会を参観しました。令和 8 年度の研究主題は、「子どもたちが学び合う喜びを感じられる授業を目指して－個別最適な学びと協働的な学びの両立を意識した指導の工夫－」です。これまでの研究の成果を踏まえながら、今年度の研究で大切にしていく視点や授業づくりの方向性が共有されました。

「笑顔あふれる楽しい学校」を、上ノ原らしい学校像へ

「笑顔あふれる楽しい学校」を、
上ノ原の子どもたちや地域の姿に照らして、
みんなで育てていく一年にします。

今年度、上ノ原小学校では「笑顔あふれる楽しい学校」を目指す学校像として掲げています。この言葉は、子どもたちにとっても、保護者や地域にとっても大切な願いを表したものです。

一方で、この学校像を本当に上ノ原小学校らしい学校づくりにつなげていくためには、「どのような笑顔を大切にしたいのか」「子どもたちにとって、何が楽しいと感じられる学校なのか」を、学校・家庭・地域、そして子どもたち自身がともに考えていくことが大切です。

上ノ原小学校には、卒業生、保護者、地域の皆さんが学校を支えてきた 77 年分の歩みがあります。その積み重ねの中にある「上ノ原らしさ」を見つめ直し、今の子どもたちにとって意味のある学校づくりへとつなげていくことが、コミュニティ・スクールの大切な役割だと考えています。

社会が大きく変化する中で、学校で学ぶ意味もあらためて問い直されています。子どもたちが安心して自分を出せること。友だちや先生、地域の人との関わりの中で、自分の世界を広げていけること。そして、学校に関わる大人たちも前向きに力を合わせられること。そうした一つひとつの積み重ねが、「笑顔あふれる楽しい学校」の中身になっていくのではないでしょうか。

今年度の学校運営協議会では、この学校像を出発点に、上ノ原の子どもたちらしさ、地域らしさを大切にしながら、学校・家庭・地域がともに考え、ともに動き出す一年にしていきたいと思います。

目指す学校像

笑顔あふれる楽しい学校

- 児童の笑顔があふれ，児童にとって楽しいと思える学校
- 優しく思いやりのある言葉や行動があふれる学校
- 保護者・地域と共に協力して子どもたちを育てる学校
- 教職員がお互いに協力し合い，組織として問題を解決する学校

「笑顔になれる楽しい学び」を、みんなで支えるために

第 2 回学校運営協議会では、先生方の校内研究会を参観しました。研究会では、先生方が子どもたちの実態を見取り、「なってほしい子どもの姿」を思い描きながら、教材の価値や授業の進め方を真剣に検討されていることが共有されました。

一方で、子どもたち全員が、同じ場面で同じように「わかる・できる・うまくなる」を感じることは、決して簡単ではありません。興味関心や得意なこと、安心できる関わり方は一人ひとり違います。すぐに答えが出る学びを好む子もいれば、じっくり考えることに戸惑う子もいます。自分の考えを友だちに伝えることに緊張する子もいるでしょう。その日の体調や気分によっても、学びへの向かい方は変わります。

だからこそ、全員がいつも同じように主体的で、協働的で、楽しそうに学ぶ姿だけを理想にするのではなく、それぞれの違いを前提にしながら、少しずつ学びに向かう力を育てていくことが大切なのだと感じました。

また、子どもたちの学びに対する感覚は、学校の中だけで育つものではありません。「すぐに役に立つこと」「早く正解にたどり着くこと」が重視されがちな社会の中で、すぐには答えが出ない問いに向き合うことや、友だちの考えを聞いて自分の考えを広げていくことには、大きな意味があります。

学校での「楽しい学び」とは、ただ明るくにぎやかな時間のことではありません。わからないことに出会い、考え、迷い、友だちと関わる中で、「少しわかった」「考えが変わった」「もう少しやってみたい」と感じられること。その積み重ねが、子どもたちの笑顔につながっていくのではないでしょうか。

このテーマは、先生方だけが背負うものではありません。学校での学びを、家庭や地域がどう受け止め、どう支えていくのか。コミュニティ・スクールとして、学校・家庭・地域がともに考えていきたい大切な問いです。

上ノ原の子どもたちに、どのような学びを経験してほしいでしょうか。